

## 城山の化石

《長沼》

城山旧二の丸に、化石と呼ばれている石がある。昔、石背朝臣の墓であったが、長沼氏が城を築き、城中守護のために、摩利支天尊神を祀ったといわれる。

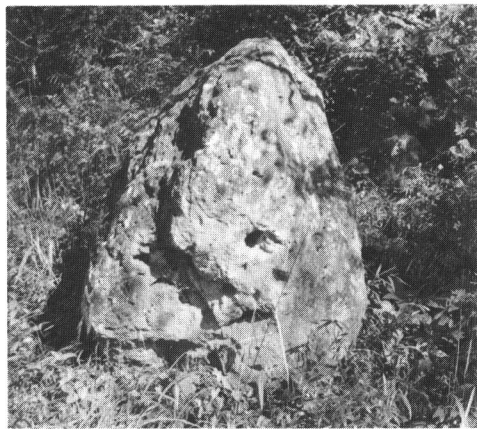
南北朝時代に至り、白河の城主結城氏と畠山氏がこの城を攻めた。この石が化けて、武者の姿となって戦かったという。その時受けた矢玉鉄砲傷が、今も残っているといわれる。

のち、新国氏がこの城を再建した時、不測の事があったので、再び摩利支天尊神を祀って、その靈を鎮めたという。

今はただその石だけが残り、傍に地藏尊が建てられてある。

〔「長沼名義考」・「岩瀬郡誌」より〕

城山の化石



## 天神山の天六郎

《長沼》

町の南に、天神山という山がある。昔、この山の麓に森孫兵衛という者が、天神の祠を創立したので、山の名を今に天神山という。